

平成20年度の構想

スローガン

## 歴史に感謝と決別を！

～自らの心を磨く木青連～

ミッション：森林資源の健全なサイクルを守り続ける

基本方針

森林資源の健全なサイクルを守り続ける使命を持った日本木青連

地域会団のための日本木青連

会員の心を磨く場としての日本木青連

運営方針

すべての活動を、『森林資源の健全なサイクルを守り続けるために』というミッションから動機付ける

各地会団活動の紹介と日本木青連としてお手伝いできることの検討・実施

人と人との交流が会員の心を磨く

国・企業・経済諸団体・NPO・消費者団体・教育現場あるいは国民への発信を通じ、木材利用の重要性を訴える

### 感謝と決別

「これまでの尺度で物事が計れない時代になった」と言われ始めて久しくなりますが、我々は本当に心の底からそう思っているのでしょうか？これまで、多くの先輩方が築き上げてこられた実績と歴史があって初めて現在の私たちがいます。先輩方が、その時代その時代での環境の変化に必死に対応し、現在に至っていることは確かであり、その歴史に心から敬意と感謝を表すものでありますが、代を引き継ぐ我々の心の隅に甘えは無いか自問自答してみてください。だからこそ、あえてスローガンとして、『決別』の二文字を持ってきました。もう少し言葉を加えるなら、『歴史に感謝と（歴史に甘えている自分に）決別を！』となります。現在、業界は、それこそ先輩たちも経験したことが無いような環境にさらされています。その未曾有の時代を、我々は、自らを変えながら生きていかなければなりません。先輩たちが築いてきた歴史を踏まえながらも、大事なことは、自分自身を磨くことと自らのネットワークを更に広げて行くことです。大義をもって事に当たり、その大義を共有する仲間との交流を糧に自らを磨く。日本木青連を通して、このことの実現につながるよう、本年の活動を位置づけます。

### 大義

われわれは、よく国産材・外材、と言う具合に区別をして話をし、それぞれを扱っている者にとって、立場や利害の違いで、それらに対極的な位置に置きがちです。安くて物の良

い外材が、量と品質の安定、という日本のニーズに合致し、輸入量が増え続けてきましたが、一方、そのために国産材の使用割合が減り続け、常に陽のあたらないところに追いやられたと言う被害感が日本の木材界に蔓延してきたように思えます。しかし、2005年から顕在化してきた外材の高騰、高値安定状況に遭遇してからの国産材に対する見直し。一部では、「国産材の時代が来た」と喜ぶ向きもあるが、果たして本当にそうだろうか？なぜ、国産材が見直されてきたのか？単に流通価格の割安感が出てきたからだけのことです。では、なぜ輸入材が高騰したのか？世界全体の木材需要量が右肩上がりが増えてきているからです。では、世界全体の木材需要と日本の国産材は無縁のものでしょうか？割安な国産材と言いながら、今の価格体系で、伐採・木材利用・植林という健全なサイクルが守られるのでしょうか？答えは、どちらも否です。日本の国際購買力の低下が、業界全体に大きな影を落とすということに、我々が気づかなければなりません。世界的に見ても「日本の木は安い」と思われ始めています。ということは、必然、世界の需要家たちが日本の木を買いに来ると言う構図になり、全体の三分の二が民有林と言われる日本の森林は、外資のもとに屈することになってもおかしくない可能性があります。健全な資源サイクルを維持するための適正価格になる前に、資源が無くなっては遅きに失すること必定です。非常に極端な言い方をしましたが、これだけの危機感を持ってこれからのことを考えなくてはなりません。我々の本来の役割は、『森林資源の健全なサイクルを守り続けること』に他ならないからです。これこそが大義です。川上から川下まですべてが潤う形で流通を確保し、山へお金が返るにはどうしたらよいか、これをトータルで実現できるよう発信して行きましょう。

### 『真の国産材時代』と憧れの大人

『真の国産材時代』は、自国の森林を貴重な資源と位置づけ、それに携わるすべての人々が、自分と自分の仕事に誇りを持ち、全国民がこれを認めるところまで辿り着かないことには、到底やってこないと考えます。大人への啓発も大事ですが、資源に関する教育も子供のころから必要ではないでしょうか。世界は、今、資源争奪戦とも言うべき事態に至ってきました。『森林資源の健全なサイクルを守り続けること』 この基本的な命題に答えを出し続けていくことが、木材に関わるわれわれすべての役割ではないかと考えます。日本木青連のすべての活動も、その動機付けがこの命題を基にして裏付けられなければ、木材に関わる誇りも、やりがいも何も無いものになってしまいます。自然の恩恵を受けて仕事をしている我々こそが、その仕事を通じて地球環境にも配慮できるポジションにいるのです。そして、誇りと気概を持って仕事に当たる大人の存在が、次代を担う子どもたちを育むことにもつながるのです。我々すべてが、子どもたちにとっての憧れの存在になることこそが、今必要とされております。

この大義を、会員全員が共有し、あらゆる活動を通して交流を深めながら自らを磨く場を日本木青連が提供していかなければならないと思います。

<活動方針>

1. 日本木青連が提唱し、地区協議会・単位会団と共に行う根幹となる運動と事業
  - 1) 木材の普及啓蒙・需要拡大のための PR 運動の推進
  - 2) 第 53 回全国会員広島大会開催への全面的な協力
  - 3) 第 54 回全国会員金沢大会の開催
  - 4) 会員の拡大推進活動
  - 5) IT ツール(日本木青連 HP と木魂 2 1) の役割分担とそれに応じた委員会への落とし込み
  - 6) 健全な森林資源サイクルに関する各種研究会・研修会・提言
  - 7) 業界関連法改正の情報収集とそれに対する提言
  
2. 日本木青連が会を運営し活動を進めるために開催する会議等
  - 1) 定時総会
  - 2) 理事会
  - 3) 各委員会
  - 4) 全国会団長会議
  
3. 日本木青連が主催し地区協議会・単位会団に協力を依頼して行う事業
  - 1) 第 54 回全国会員金沢大会
  - 2) 第 33 回全国児童・生徒木工工作コンクール
  - 3) 第 12 回木材活用コンクール
  - 4) ウッディレターの発行
  - 5) PR カレンダーほか、各 PR 雑誌・読本・ビデオの斡旋
  - 6) 各単位会団での木造住宅設計コンペ実施へ向けた推進活動
  - 7) 林野庁、国土交通省、関係団体との情報交換会
  
4. 各地区協議会、各単位会団および関連団体が主催し日本木青連が協力して行う事業
  - 1) 木材 PR 事業
  - 2) 県会員大会
  
5. 各地区協議会が主催し各単位会団、日本木青連に協力を依頼して行う事業
  - 1) 地区会員大会
  - 2) 協議会
  
6. 日本木青連が組織参画及び出向者を輩出する団体が主催し、日本木青連、各地区協議会、各単位会団に協力を依頼して行う事業
  - 1) 関係団体が主催する事業

別の角度で日本木青連の活動を整理すると、

木育に通じる活動

木材活用推進のための活動

会員同士の情報交換や研修も含めた交流活動(特に今年は森林資源の健全なサイクルをテーマに)

国や関係団体との情報交換やそれらへの提言活動

大きくこの四つに集約されますが、『森林資源の健全なサイクルを守り続ける』という最終目標に結びつける視点で、今年度、すべての事業展開を考えていきましょう。

<木育に通じる活動>

- ・ 木工工作コンクール
- ・ 『子供たちに贈る森からの手紙』の配布やそれを使った訪問授業等の勧め。その発展形として、義務教育の中の授業として取り込めないかを模索。
- ・ 木造住宅設計コンペの推進(各会団共通事業としての連携)

<木材活用推進のための活動>

- ・ 木材活用コンクール(NPO木の建築フォーラムとの連携)
- ・ 木材PRカレンダー
- ・ 対外的PR活動

<会員同士の情報交換や研修も含めた交流活動>

- ・ 世界主要国の森林資源管理等の研究
- ・ ウッディーレター発行
- ・ 各地区の活動紹介
- ・ 各種勉強会の実施
- ・ 単位会団の活動サポート

<国や関係団体との情報交換やそれらへの提言活動>

- ・ 業界関連法改正等についての提言
- ・ 国土交通省・林野庁との情報交換会
- ・ 木青連顧問との意見交換
- ・ 日本の森林資源に対する提言(世界主要国の森林資源管理等の研究を踏まえて)

貴重な森林資源の健全なサイクルを守り続けることは、我々の子供たちの未来を守ることにつながるという認識をすべての木青連メンバーと共有しながら、20年度の活動を共にやっていきましょう。